

2007年2月16日

報道関係各位

アステラス製薬株式会社
ファイザー株式会社

**リピトール®による積極的脂質低下療法は
冠動脈疾患患者の心不全による入院リスクを低減させる**
- 心不全による入院は米国の医療費高騰の主要原因 -

この参考資料について

この資料は、米国ファイザー社が2月7日(米国現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳再編集し、皆さまのご参考に供するものです。

本データの詳細につきましては <http://www.pfizer.com/pfizer/main.jsp> をご参照ください。

高コレステロール血症治療剤アトルバスタチン(リピトール®)について

リピトールは2000年5月に日本で販売が開始されました。アステラス製薬株式会社が製造・販売し、ファイザー株式会社がコ・プロモーションをしています。本剤の作用機序は、生体内コレステロールの合成を持続的に抑え、血液中からのLDLコレステロールの取り込みを促進することです。これにより、コレステロール低下作用を発揮し、1日1回10mg投与で平均41%のLDLコレステロール低下、30%の総コレステロール低下を達成できます。

国内の高コレステロール血症患者数が2000万人以上といわれる中で、リピトールは、高コレステロール血症治療に大きく貢献すると期待されております。

詳細につきましては <http://www.Lipitor.com> をご参照下さい。

本件に関するお問い合わせ先:

ファイザー株式会社 製品広報部 金島亮一

TEL: 03-5309-6158

E-mail: ryoichi.kaneshima@pfizer.com

**リピートル®による積極的脂質低下療法は
冠動脈疾患患者の心不全による入院リスクを低減させる**
- 心不全による入院は米国の医療費高騰の主要原因 -

ニューヨーク、2月7日 - 本日付発行の米国心臓協会誌「*Circulation*」に掲載された発表によると、5年間にわたり実施された TNT (Treating to New Targets) 試験に参加した患者を新たに再解析した結果、リピートル(一般名:アトルバスタチンカルシウム水和物)80mg錠を服用した心臓疾患患者では、リピートル 10mg を服用した患者に比べて心不全により入院するリスクが低減することが明らかになりました。

ファイザー社の心血管・代謝グループの部門長ロシェル・チャイクン医師 (Dr. Rochelle Chaiken) は次のように述べています。「心不全の既往歴がある患者においてリピートル 80mg を服用した群は、心不全による入院リスクを有意に低下させました。今回の医師、患者向けの貴重な新情報は、これまでに証明されてきたリピートルの心臓発作、脳卒中、および血行再建術などのイベントリスクを低減させる効果への、さらなる裏づけになります。」

本解析によると、リピートル 80 mg を服用した心臓疾患患者では、心不全による入院リスクが有意に 26% 低下することが明らかになりました。また、心不全の既往のある心臓疾患患者においても、リピートル 80 mg 投与により入院リスクが 41% 低下し、有意差が示されました。

サンフランシスコ市のカリフォルニア大学医学部のデイビッド・ウォーターズ教授 (Dr. David Waters) は次のように述べています。「これらの所見は、高いリスクを有する患者の管理において重要な意義を持っています。なぜなら米国では心不全による入院が医療費高騰の主要原因だからです。」心不全は、米国の65歳以上の入院理由として第1位になっています。心不全による入院を一度経験した患者さんは、心不全で再入院するリスクが高くなるとともに、死亡の危険性も増加します。2007年に米国で心不全にかかる総医療費は332億ドルと推定されています。

心不全の影響:

心不全は、身体が必要とする量の血液を心筋が十分に送り出せないときに起こる疾患です。米国で約500万人、欧州で650万人が心不全に罹患しており、全世界では毎年約100万人が新たに心不全と診断されています。心不全を発症する患者さんには、心臓発作による障害、高血圧、喫煙、肥満、高脂肪・高コレステロール食の摂取、運動不足、糖尿病など、本疾患以外の心機能に

影響を与える健康状態や生活習慣がしばしば認められています。

TNT試験に参加した患者10,001例における結果：

- 心不全による入院の発生率は、リピトール80 mg群で2.4%、リピトール10 mg群で3.3%でした。

これらの患者を対象としたサブ解析の結果：

- 心不全の既往歴のある患者(781例)における心不全による入院の発生率は、リピトール80 mg群で10.6%、リピトール10 mg群で17.3%でした。
- 心不全の既往歴のない患者における心不全による入院の発生率は、心不全の既往歴のある患者に比べて低値を示しました(リピトール80 mg群で1.8%、リピトール 10 mg群で2.0%。治療群間に統計的有意差は認められませんでした)。

TNT試験について：

TNT (Treating to New Target) 試験は、独立運営委員会が調整を行い、ファイザー社が資金を提供した治験統括医師主導型の試験であり、リピトール 80 mg の有効性と安全性を評価した試験としてはこれまでで最大規模の試験です。本試験では、14 カ国において冠動脈疾患を有する 35 ~ 75 歳の男女患者 10,001 例を登録し、平均 5 年の期間にわたり追跡調査を実施しました。

以上

